府立緑風冠高等学校
校　長　　森本　実

令和７年度　学校経営計画及び学校評価

１　めざす学校像

校訓「英知・至誠」に基づき、新しい時代を担う英知と、豊かな人間性・創造性・社会性を身につけ、自ら学び、自ら考え、自ら鍛錬し、

それに基づいて自ら誠実に行動することができる人を育成し、地域に愛される学校をめざす

２　中期的目標

１　授業改善と授業力向上に取組み、「確かな学力」を身につけ、夢を実現する力を育成する教育活動
（１）　組織的に授業力向上と改善に取組み「主体的、対話的で深い学び」の授業を実践し、生徒の学力を向上させる
　　ア　「学び合い、学び続ける生徒の育成」のため、全教員で「主体的、対話的で深い学び」の授業を行う
　　イ　授業満足度の向上と、わかりやすい授業のため、全教員が多種多様なデジタルコンテンツについて知識を深め、それらを効果的に取り入れた授業を行う
　　※　生徒「進路実現のための学力向上満足度」を向上させる　〔R04：74.3%　R05：78.9%　R06：78.3%〕⇒令和９年度：85%〕
　　ウ　カリキュラムの見直し、特に本校の特色の１つでもある「看護コース」のカリキュラムについて、より一層特色化を進める。
（２）　総合的な探究の時間をはじめ、すべての教科・科目等において、課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現などの探究的な学びを充実させることにより、課題を発見し解決していくために必要な資質・能力を育成する
（３）　３か年を見通した進路指導計画、生き方に関する学習機会を提供し、主体的かつ積極的に社会に参加する力を育成し、満足度の高い進路を実現する
　　※　学校紹介による就職内定率　〔R04：100%　R05：100%　R06：100%⇒令和９年度 100%維持〕
　　※　関関同立・産近甲龍・摂神追桃・外（関西・京都）合格者数を増加させる　〔R04：89 人　R05：98 人　R06：65 人⇒令和９年度：100 人〕
（４）英語教育の充実を図るとともに、生徒のコミュニケーション能力と進路意識の向上に取り組む

２　自律心を高める生徒指導、地域と連携した教育活動、魅力ある特別活動に取組み、安全・安心で地域・保護者に信頼される学校づくり
（１）　自律を促す指導を粘り強く行い、生徒の規範意識を醸成するとともに、教育相談体制や生徒支援体制の満足度を向上させる
（２）　生徒の自己有用感を醸成し、帰属意識を高め、安心できる人間関係を構築するため特別活動（行事、部活動等）を充実させ、学校満足度を向上する
（３）　探究活動や部活動を通した地域との連携を推進する

３　人権尊重の教育を推進するとともに、「ともに学びともに育つ」教育の実践により、すべての生徒に安全・安心な教育環境の構築
（１）　共生推進教室を組織的な校内体制で推進するとともに、障がいのある生徒の自立を支援する
　　ア　共生推進教室での充実した自立活動の取組みと職場実習の実施により、生徒全員の進路実現
　　イ　障がい者理解教育研修を推進し、すべての教職員が共生推進教室の取組みに関わる
　　※　共生推進教室生徒の進路実現〔R04：100%　R05：100%　R06：100%⇒令和９年度 100%維持〕
（２）　教職員の人権教育等の研修を定期的に実施するとともに、生徒への人権教育を推進する
　　※　教職員向け年２回の人権研修を実施し、研修への肯定率を向上させる〔R04：85.4%　R05：81.3%　R06：81.5%⇒令和９年度：85%〕

４　校務の効率化と働き方改革の推進
（１）学校経営に教職員が参画する PDCA サイクルを推進する
　　※　教職員「学校運営に教職員の意見が反映されている」を向上させる　〔R04：58.3%　R05：62.5%　R06：64.8%⇒令和９年度：70%〕
（２）校内体制並びに業務の見直しと改善・効率化を図る。
　　※　80 時間/月以上の超過勤務者をなくす　〔R04：21 件　R05：16 件　R06：13 件⇒令和９年度：０件〕

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析［令和７年 11 月実施分］	学校運営協議会からの意見
［生徒］　回収率 87%［91%］ ・概ね昨年度と同じような結果となったが、設問 13「学校で火災や地震などの災害が起こった場合、避難経路など、どのような行動をとれば良いか、知らされている」については大幅に肯定率が下がった。これについては、例年 11 月に避難訓練を行っているが、昨年度は訓練後、今年度は訓練前にアンケートを実施したためで、裏を返せば避難訓練の重要性を示した結果となっていると考えられる。 ・新たに追加した設問３－２「探究活動に取り組むことで、なりたい自分や自分の専門性を見つけ、進路を決めることができた」について、３年生の肯定率が 67.2%であることについて、70%以上を指標としている。探究と進路の繋がりについてさらに詳しく検証していく必要がある。 ・本校が活用する学習支援クラウドサービスの活用については、昨年度をさらに上回る肯定率が出ており、本校の特色となっていることが数値として表れている。引き続き利活用を進めていきたい。 ［保護者］　回収率 29%［31%］ ・回収率が一昨年度 45%から減少し続けている。調査方法が現状の学習支援クラウドサービスと適合していない様子が窺い知れる。来年度以降、調査方法の見直しを実施したいと考える。	〔第１回　７月３日〕 〇令和 10 年度選抜における学校特色枠の設置について ・私学だけではなく、通信単位制の学校への受験者も増加している。中学生にとっては、より自分に有利な学校、適する学校を選択しやすくなる可能性があるものという認識でよいのか。 ・各府立高校のカラーが今まで以上に見える化していくだろう。 ・看護コースのカリキュラムを改革するとのことだが、具体的に他校とどんな差別化を図っていくかが重要かもしれない。企業や上級学校は将来入職、入学する可能性に寄与するのであれば、どこであっても協力してくれると思う。 ・美術の特色化について、美術を専門的に学んでいくことで、どこまで未来が広がっていくのか。実際、演劇や音楽活動のようにイメージがつきやすい形になっていけば、美術であってもよいかと思う。 ・現在は選抜において資格の活用は行っていないとのことだが、資格の活用を可能とすれば、学校経営計画とのつながりも見えてくるかと思う。 ・日本全国や世界で活躍している卒業生などのコメントをもらえたら、今の子どもたちに良い影響がもっと出てくると思う。活躍する卒業生の姿を SNS 等を通じてもっと発信するべきではないか。

府立緑風冠高等学校

・本校教育活動に関する各設問には、例年７～８割前後の肯定回答をいただいている。数値としては多くの設問で右肩上がりとなっていることから一定の教育活動を提供し続けられていると推察できる。
・特に設問４「学校は、将来の進路や職業などについて必要な情報を提供し、適切な指導を行っている」、５「学校は、心身の健康、友人関係、いじめなどの悩みに、親身になって応じ、真剣に対応してくれる」、９「学校は、保護者の相談に適切に応じてくれている」については 10 ポイント以上伸びており、保護者からの厚い信頼が伺える。
・質問 11「学校のホームページや校長ブログを見て情報を得ている」の肯定率は４か年続けて減少している。ホームページやブログでの情報発信では今の社会情勢には合致していないと考えられる。SNS の活用は今や当たり前になっており、本校でも生徒会や部活動において SNS による情報発信が主流となっている。次年度は設問内容の変更を考える。

［教員］　回収率 100%［100%］
・設問１「学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている」、設問 12「ホームルーム活動に関して、副担や学年、学校全体で取り組んでいる」について９割以上の教員が肯定的な回答をしている。ホームルーム活動や総合的な探究の時間等を通じて、学年全体で取り組んでいることが肯定的な意見の上昇に繋がっていると考えられる。
・設問 11「校内研修は、教育実践に役立つような内容となっている」については、肯定的な意見が 81.5%から 69.8%に下降している。テスト期間や短縮期間の放課後の時間帯を活用して、人権や授業力向上、探究活動、ＩＣＴ研修など幅広い研修を行っているが、内容について精査していく必要がある。
・設問 16 「校則が、生徒の実態や人権尊重の立場から適切であるかについて随時検討している」について、生徒指導部を中心に生徒指導内規の見直しを行い、服装の項目について変更を行った。そのため肯定率の上昇（53.7% → 69.8%）に繋がった。今後も検討を継続してきたい。
・昨年度の分析にも挙げられていた、設問 17「職員会議に至る各種会議が、情報交換と課題検討の場として有効に機能している」、18「各分掌や各学年、各職種間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している」について、７割前後肯定的な回答であり、今後は肯定率８割をめざしていきたい。設問９「学校運営に教職員の意見が反映されている」においても、肯定率がやや上昇している。校務分掌や各学年間の連携がうまく機能してきていると考えられる。

〇海外姉妹校提携について
・英語力を本当に身につけさせるのであれば英語圏が最適だと思う。または公用語は違っても英語を日常的に使っているような国でもかまわないと思う。
・修学旅行も海外にシフトするとのことだが、生徒が修学旅行に行った国にまた行きたいと思うのかどうか。修学旅行の行先と留学先は別の国にすることも有りかと思う。
・修学旅行は行先を選択制にするのも１つの方法であると思う。

〔第２回　11 月　26 日〕
〇地域との交流について
・地域団体や新たに企業家同友会とも連携し、幅広い活動が行えている状況であるとのこと。特に吹奏楽部や箏曲部が地域の福祉施設との交流を行っていることは非常にほほえましいことである。今後はさらに福祉的な活動をすすめてほしい。老人ホームなどでのふれあいは利用者の方々が感動してくれるケースが多い。ヘアメイクやフェイスメイクなどが得意な生徒にボランティアをしてもらうこともよいのではないか。
〇教員の働き方改革について
・月 80 時間の超過勤務者がなかなか０人とならないとのことだが、部活指導を業務から切り離したり、超過者に対してなんらかの罰則を科すなど、荒療治を行わないとなかなか解決できない難しいフェーズであると思う。
〇人権教育について
・人権を尊重するための研修は、身構えることなくやってほしいと思う。当社も毎年障がいのある方が入社してくる。入社後、特段それに向けた研修をしているわけではないが、関わり合いの中で自然とそれぞれのルーツなどを受け入れあっている状況がある。
〇探究学習の推進について
・探究学習と進路分析の連動は重要であると考える。部活動の活性化や遅刻数などにも影響していると思う。探究学習がその人自身の選択肢が広がるような教育活動であってほしいと願う。
・民間の教育産業に府立高校から一番多く問い合わせされるものが探究関連のテーマである。進路選択と探究の項目は関連しており、探究学習について肯定的な数値が高い学校は進路部の中に探究委員がおかれているケースが多々見受けられる。

〔第３回　２月　４日〕
〇施設設備の充実について
・昨今、府立高校の定員割れが大きな話題となっている。私学では入学金の免除など特典を打ち出している学校もある。また、中学生も進路を早く決めたいという意向が強くなっている。もはや施策の問題であり、我々が議論できる範疇ではなくなっていると考える。次の夏には食堂にエアコンが設置され、教室の壁や床の張替えも順次行われていくとのことだが、施設設備の面で私学とはあまりにも落差がありすぎる。公立高校が生き残っていくためには学校の更なる特色化とともに、教育環境を早急に整えてほしい。
〇生活指導について
・四條畷警察と連携し、SafetyBicycle 推進校に認定されたとのことだが、交通安全だけではなく、それ以外にも高校生が巻き込まれるあるいは自分たちが起こすかもしれない，例えば「性被害」や「性加害」について、「SNS の使い方」も含めて生徒には繰り返し意識付けを行う必要がある。企業でもコンプライアンス研修などをするが、社内の者がするのではなく、顧問弁護士などにしてもらうと聞く側の姿勢が全然違う。積極的に外部の専門家を招いた研修や講演会を実施していただきたい。生徒たちに悲しい思いをさせたくないし、する側にもなってほしくない。

府立緑風冠高等学校

3　本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R６年度値]	自己評価
1「確かな学力」を身につけ、夢を実現する力を育成する教育活動	（１） 組織的に授業力向上と改善に取組み「主体的、対話的で深い学び」の授業を実践し、生徒の学力を向上させる。 イ 授業満足度の向上と、わかりやすい授業のため、全教員が多種多様なデジタルコンテンツについて知識を深め、それらを効果的に取り入れた授業を行う。 ウ 「看護コース」のカリキュラムについて、特色化を進める。	イ 定期的な相互授業見学（年２回）及びICTを活用した授業力向上の研修や研究授業を実施する。 ウ ３年後を見据えたカリキュラム検討のためのＰＴを立ち上げる。	イ ・相互授業見学参加率を上げるための新たな取組みを行い、参加率80%以上とする。[60%] ・授業力向上や１人１台端末活用等の研修を１回以上［２回］、研究授業を２回以上［５回］実施する。 ・生徒「１人１台端末を効果的に活用している」肯定率95%以上。[94.7%] ・生徒「授業アンケート肯定意識」を3.4以上。[3.3] ウ 「看護コース」の在り方についてのフォーマットを作成する。	イ ・第１回９人14件18.4% 第２回35人50件71.4% のべ44人64件　実参加人数38人78%（○） ・大学教授を招き10月に授業力向上のための教員研修を行った。12月に探究活動に関するワークショップ、生成AIの活用研修、１月に１人１台端末活用推進研修を実施。計４回（◎） 研究授業については、国語（２回）、社会、英語（２回）、家庭科で実施。計６回（◎） ・94.8%（○） ・第１回3.4　第２回3.3　（○） ウ 理数・看護発展コース改革PTを発足。フォーマット作成のための上級学校や医療機関のヒアリングを開始。（○）
	（２） 総合的な探究の時間をはじめ、すべての教科・科目等において、課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現などの探究的な学びを充実させることにより、課題を発見し解決していくために必要な資質・能力を育成する。	・「総合的な探究の時間」において、完成した「緑風冠モデル」をアップデートし全教職員で共有を行い、課題を発見し解決していくために必要な資質・能力の更なる育成に繋げる。 ・各教科で探究的な活動を授業に取り入れる。	・生徒「探究活動に取り組むことで、なりたい自分や自分の専門性を見つけ、進路を決めることができた」肯定率70%以上。[新] ・教職員「私の授業では探究的な視点を取り入れ、主体的・対話的で深い学びの授業実践のための授業改善に取り組んでいる」肯定率80%以上。[新]	・64.6%（△） NPO 法人が主催する全国研修にチーム学校で参加している。有志チームによる伝達講習やワークショップの開催、ルーブリックの策定やシラバスの改訂に向けた探究委員会の発足など、探究活動の推進体制が確立されてきている。 ・88.7%（◎）
	（３） ３か年を見通した進路指導計画、生き方に関する学習機会を提供し、主体的かつ積極的に社会に参加する力を育成し、満足度の高い進路を実現する。	・中期的目標に掲げる「確かな学力」を具現化し、学習支援ツールも活用しながら、個別最適な学びを推進する。 ・コース・系の特徴を生かした進路指導を推進し、進学実績を向上させる。 ・満足度の高い進路を実現する。	・学力生活実態調査において、学習到達ゾーンを入学時と比較して３年時に１ランクアップさせる。[未達成] ・関関同立・産近甲龍合格者数10人以上。［５人］ ・摂神追桃合格者数50人以上。[42人] ・外大（関西・京都）合格者15人以上。[18人] ・看護医療系大学合格者増。[10人] ・芸術系大学合格者増。［２人］ ・就職内定率100%維持。[100%] ・生徒、保護者「進路指導に関する項目の満足度」肯定率90%、85%以上。[89.2%、76.3%]	・入学時の到達ゾーンを維持または向上させることができている生徒は一部に限られている。（△） ・15人（◎） うち１人は早稲田大学 ・37人（△） ・６人（△） ・８人（△） ・１人（△） ・100%（○） ・90.5%、88.1%（○）
	（４） 英語教育の充実を図るとともに、生徒のコミュニケーション能力と進路意識の向上に取り組む。	・講習、資格試験の受験指導、外部行事への参加、デジタルコンテンツの活用などより、英語教育を充実させる。	・外部団体主催の弁論大会への参加１回以上［１回］ ・英検受験者増［59人］ 英検合格者増［15人］	・ライオンズクラブ主催の弁論大会に４名の生徒が参加。１人は入賞次点、１人は海外派遣選考次点。（○） ・REC（緑風冠英検カップ）を開催。２つのデジタルコンテンツを活用し、受験者・合格者の増をめざしたが、結果には繋がらなかった。受験42人、合格15人（△） ・弁論大会への参加とRECについては、本校の特色の１つとして引き続き取り組んでいく。

府立緑風冠高等学校

２　安全・安心で地域・保護者から信頼される学校づくり	（１）自律を促す指導を粘り強く行い、生徒の規範意識を醸成するとともに、教育相談体制や生徒支援体制の満足度を向上させる。	・安全・安心や規範意識の醸成に関して、生徒が主体的に関わる機会を設ける。特に交通安全について規範意識の醸成を図る。	・生徒「学校の規則をきっちりと守っている」肯定率95%以上。[94.5%]	・96.1%（○） ルールメイキングによる生徒の側からの校則の見直しを行う動きが出てきている。
			・従来の交通安全一斉指導（年３回）に加え、生徒会による交通安全キャンペーンを年１回以上実施する。	・SafetyBicycle 推進校に認定され、生徒会と四条畷警察による交通安全運動を２学期末と３学期始めに実施。２回（◎）
		・教員全員による生徒指導体制を推進する。	・教員「私はルールやマナーの指導について、違反の現場に遭遇した際は学年を問わず声かけを行い、その都度注意し指導している」肯定率90%以上。[81.5%]	・81.1%（△）
		・時間を守る意識を徹底する。	・登校時遅刻を前年度より10%減少させる。[3506件]	・3404件（△）
		・不登校生徒について、学びへのアクセスを確保するべく、遠隔授業や通信教育を活用し学習機会の確保に努める。	・遠隔授業や通信教育を活用するにあたっての体制を整える。	・不登校生徒、怪我で登校できない生徒に対して、遠隔授業や課題、レポート中心の授業を実施。内規の原案も完成し、遠隔授業に関する校内研修も実施した。（◎）
		・要支援生徒について支援教育コーディネーター、教育相談委員会、担任、SC、SSWによる連携した支援を行う。	・生徒「教育相談に関する満足度」肯定率90%以上。[87.3%]	・84.8%（△）
		・生徒会活動を推進し、地域とも連携し学校行事を更に活性化させる。	・クラス活動や学校行事参加へ積極的に参加する肯定率85%以上を維持する。[93.2%]	・91.4%（○）
	（２）安心できる人間関係を構築するため特別活動（行事、部活動等）を充実させ、学校満足度を向上させる。	・地域や中学校、部活動大阪モデルにおいてのペアリング校と連携し、部活動指導員を有効に活用した部活動を行う。	・保護者の学校満足度85%以上。[79.3%] ・部活動加入率50%以上。[45.1%]	・85.9%（○） ・加入率53%（○） １年72%　２年49%　３年37% 部活動指導員は男子バスケットボール、陸上、剣道、サッカー、箏曲、体操の６部で活用。
	（３）探究活動や部活動を通した地域との連携を推進する。	・探究活動や部活動を通した地域との連携を推進する。	・生徒「地域や社会、世界がより良くなるためにできることに取り組んでいる」肯定率80%以上。[75.7%]	・74.8%（△） 探究活動においては、新たに地元経済同友会と連携し、職業インタビューの取組みや経営者による講演会を行っている。 部活動においても、剣道、男子バスケットボール、箏曲、吹奏楽部が地域の中学校や福祉団体等と活発に交流を行っている。
３　人権尊重の教育と、「ともに学びともに育つ」教育の実践	（１）共生推進教室生徒の自立を支援する。 ア　共生推進教室での充実した自立活動の取組みと職場実習の実施により、生徒全員の希望する進路を実現する。	ア　生徒全員の進路実現。	ア　共生推進教室３年生の進路実現100%。[100%]	・100%（○）
	イ　障がい理解教育研修を推進し、すべての教職員が共生推進教室の取組みに関わる。	イ　障がい理解のための教員研修、防災訓練を行う。	イ　障がい理解のための研修、防災訓練をそれぞれ１回以上行う。[各１回]	・11月に避難訓練を実施。その際、人工呼吸器を使用する生徒について、人形を使ったシミュレーションを実施。シミュレーションの結果を基に障がい理解のための研修を実施。各１回（○）
	（２）教職員の人権教育等の研修を定期的に実施するとともに、生徒への人権教育を推進する。	・教職員の人権研修と生徒の人権教育を推進する。	・教職員対象の人権研修を２回以上実施する。[２回]	・10月に同和問題についての教員研修を野崎高校と合同で実施。11月に外部講師を招き全校生徒及び全教職員向けにセクハラ防止研修を実施。２回（○）
			・生徒の人権に関する肯定率 90%以上を維持する。[93.2%]	・90.9%（○）

府立緑風冠高等学校

４　校務の効率化と働き方改革の推進	（１）学校経営に教職員が参画するＰＤＣＡサイクルを推進する。	・職員会議に至る各種会議を情報交換と課題検討の場として有効に機能させる。	・教職員「職員会議に至る各種会議が、情報交換と課題検討の場として有効に機能している」肯定率80%以上。[72.2%]	・67.9%（△）
	（２）校内体制並びに業務の見直しと改善・効率化を図る。	・学校行事の精選と各分掌業務の見直し、ＩＣＴの更なる活用により、業務負担の軽減を図る。	・教職員「各分掌・学年間の連携が円滑に行われ有機的に機能している」を向上させる。[66.7%]	・79.2%（○）
		・部活動方針の遵守、全校一斉定時退庁日の徹底に取り組む。	・80時間/月以上の超過勤務者を前年比20%減少させる。[13件]	・10件（○）